

第21回・平成30年度 全視連功労者 功績概要

		氏名（ふりがな）	功績概要
1	山形県	原田 成夫 はらだ しげお	昭和50年、北村山広域行政事務組合に就職。北村山視聴覚教育センターおよび組合教育委員会総務課勤務は通算42年間となる。特に、地域の自作教材制作、視聴覚教育および天文教育に尽力し、同センターの事業発展に寄与した。また、全国視聴覚教育連盟の専門委員や監事を平成18年4月より平成27年4月まで就任。平成23年4月に同センター所長に着任後は、研究・研修活動として小中学校情報教育研修会や、視聴覚教育講演会、ビデオ講習会、コンピューター研修会、委嘱研究員授業研究など指導助言を行い大きな成果を上げるなど、地域の視聴覚教育に貢献した。
2	栃木県	椎名 麻衣 しいな まい	平成13年に栃木県総合教育センターで開催されたIT講習会を受講後、修了生で組織した「栃木県メディアボランティア」の一員として、団体立ち上げ当初から活動に携わり現在に至る。初心者を対象としたパソコン相談会や公共団体が開催する講座のボランティア講師を引き受けるなど、平成23年からは同団体の代表として会員のスキルアップや自主講座開催によるメディア教育の振興発展に寄与している。また居住地である小山市の観光協会においてもホームページやSNSの管理運営、配信を通し、観光情報を広く発信するなど、地域に多大なる貢献を行っている。
3	埼玉県	増田 敬一 ますだ けいいち	昭和56年、県内公立小学校に着任、教員2年目で視聴覚主任となる。平成元年から埼玉県及び埼玉葛学校視聴覚教育連盟幹事、平成13年から春日部市教育委員会社会教育課指導主事、平成22年から埼玉県視聴覚放送研究団体連絡協議会に所属し、子どものメディア文化研究会会長となり、平成29年3月に春日部市立内牧小学校長として退職するまで、35年間を学校教育及び社会教育における視聴覚・情報教育の振興に携わり、教育メディアを活用した学習活動を地区及び県段階での指導的な立場で率先垂範の姿勢で取り組み、視聴覚教育・情報教育の振興に寄与した。
4	新潟県	佐藤 克彦 さとう かつひこ	昭和55年より県内公立小学校に勤務。平成元年4月から十日町市視聴覚ライブラリー主任・視聴覚教育主事として、視聴覚教材の整備、VTRビデオ作成やコンピューター研修会の講師を担当した。平成4年から新潟県立生涯学習推進センターに社会教育主事として勤務した。ここでは、県内の視聴覚ライブラリーが主催する視聴覚教育研究大会での全体指導や、関東ブロックの視聴覚教育研究大会の分科会指導を行った。また、同センター主催の視聴覚メディア研修の講師を務めるなど、地域や県内で学校教育のみならず社会教育における視聴覚教育の普及に尽力した。
5	岐阜県	見鳥 功 みとり いさお	笠原町視聴覚クラブ（現協議会）に入会してから45年間、現在に至るまで視聴覚ボランティア活動に取り組んでいる。子ども会育成連絡協議会長や公民館長など、社会教育の推進にも携わっており、その立場を活用しながら、視聴覚教育の普及および視聴覚教育を通じた青少年の育成に尽力した。また、地域の行事・イベント等のビデオ記録撮影を行ない、行政をはじめとする各種団体の活動を支援している。現在においては、笠原町視聴覚教育協議会長及び岐阜県社会教育視聴覚連絡協議会常任理事として、地域及び県の視聴覚教育の普及に大きく貢献している。
6	鹿児島県	染川 秀夫 そめかわ ひでお	昭和55年川内市教育委員会社会教育課主事視聴覚ライブラリー担当、平成10年中央図書館係長と視聴覚ライブラリー担当を兼務、同28年中央図書館視聴覚ライブラリー担当などを経て現在に至る。その間、視聴覚教育指導者認定講師や16ミリ映写機操作免許証認定講座講師の資格を取得。また、視聴覚教育指導者研修講座上級を取得し、市民等を対象とした講座を開講したり映画の上映会を開催している。さらに、鹿児島県視聴覚教育連盟の専門員として県の教材選定に携わったり、県自作視聴覚教材コンクールの審査員を務めたりするなど、県全体への貢献も大きい。
7	北九州市	浅川 章三 あさかわ しょうぞう	民間企業に勤務する傍ら、昭和48年16ミリ映写機操作技術講習会を受講。同時に「北九州市A V Eの会」若松区会に入会し現在まで45年間在籍。77歳を迎えた現在でも、毎月学童保育クラブや老人施設、保育園などを訪問し、16ミリ映画の巡回映写会を開催している。平成13年からは同会本部理事、同20年から若松区会副会長（会長代行）、同27年から現在まで若松区会会長の要職を歴任。同会での45年間にわたる地道な活動と経験、リーダーシップは、広く北九州市の社会教育活動並びに青少年育成に大きく貢献している。